

令和3年10月17日執行

佐賀市長及び佐賀市議会議員選挙

令和3年10月31日執行

衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査

に関するアンケート調査

結 果 報 告 書

佐賀市選挙管理委員会・佐賀市明るい選挙推進協議会

令和4年9月

1. アンケート調査実施要領

目的

佐賀市選挙管理委員会及び佐賀市明るい選挙推進協議会では、令和3年10月17日執行の佐賀市長及び佐賀市議会議員選挙、令和3年10月31日執行の衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査において、市民の皆様の選挙に関する動向を把握し、今後の選挙啓発活動等の参考にさせていただくことを目的にアンケート調査を実施した。

調査対象

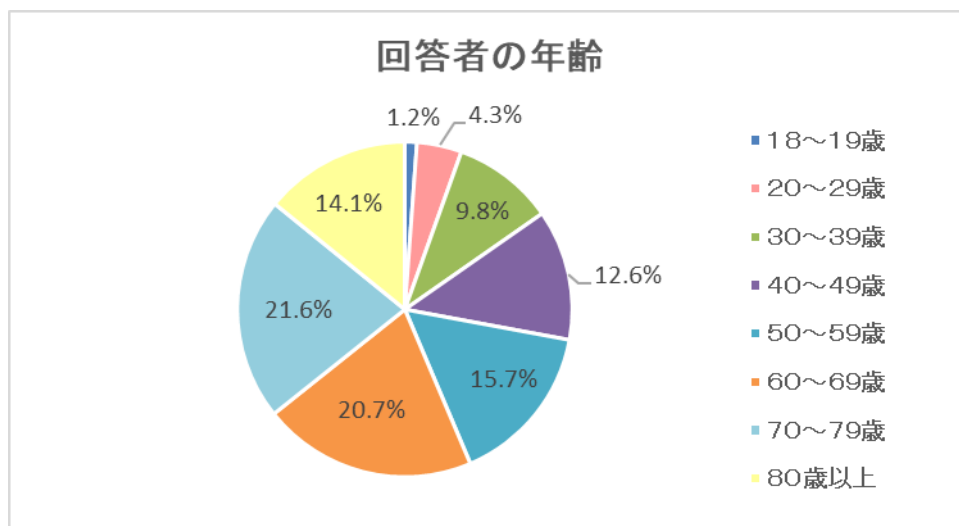
令和3年10月の佐賀市長及び佐賀市議会議員選挙の選挙時登録の選挙人名簿登録者190,140人（男88,205人、女101,935人）の中から、対象者を3,000人と決め、有権者数の比率及び年代別投票者の比率を用い、対象者を抽出するエリア、年齢の割合を決定し無作為に抽出を行った。

調査方法

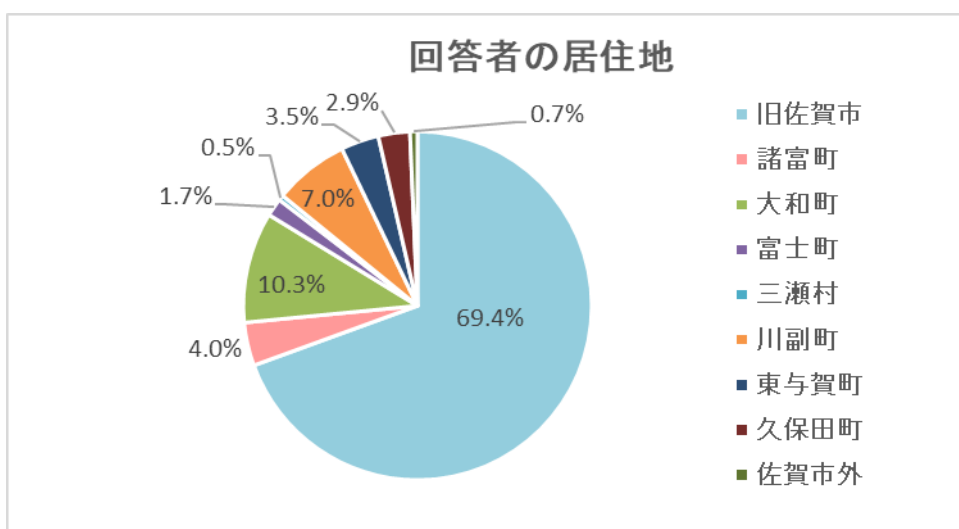
アンケート調査は、抽出者に対して、調査票を令和4年1月24日に郵送し（回答期限は令和4年2月14日）、同封した料金受取人払いの回答用封筒で調査票を回収する方法で実施した。その結果、回答者数は1,042人、回収率は34.73%であった。

2. 回収結果について

問1 あなたの年齢をお答えください。



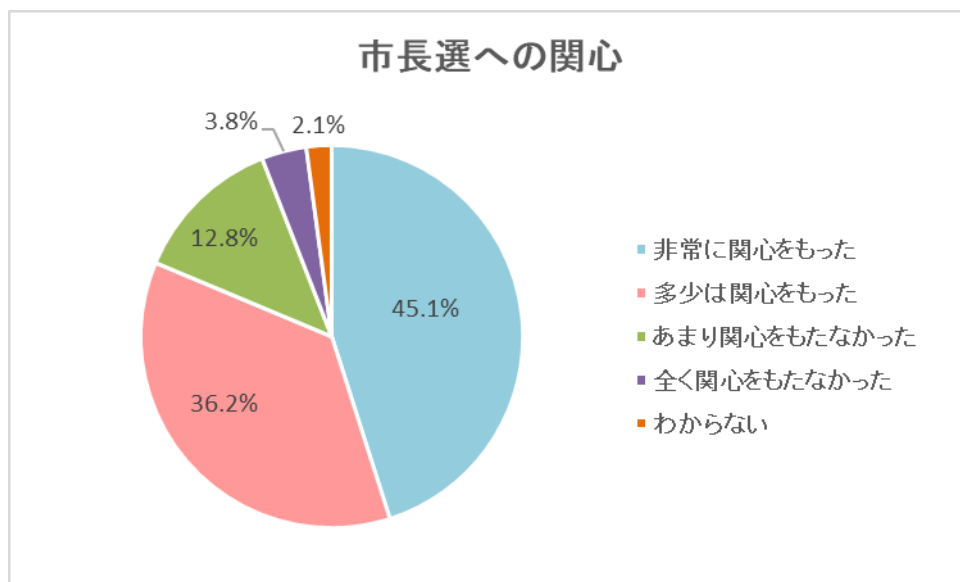
問2 あなたの居住地を教えてください。



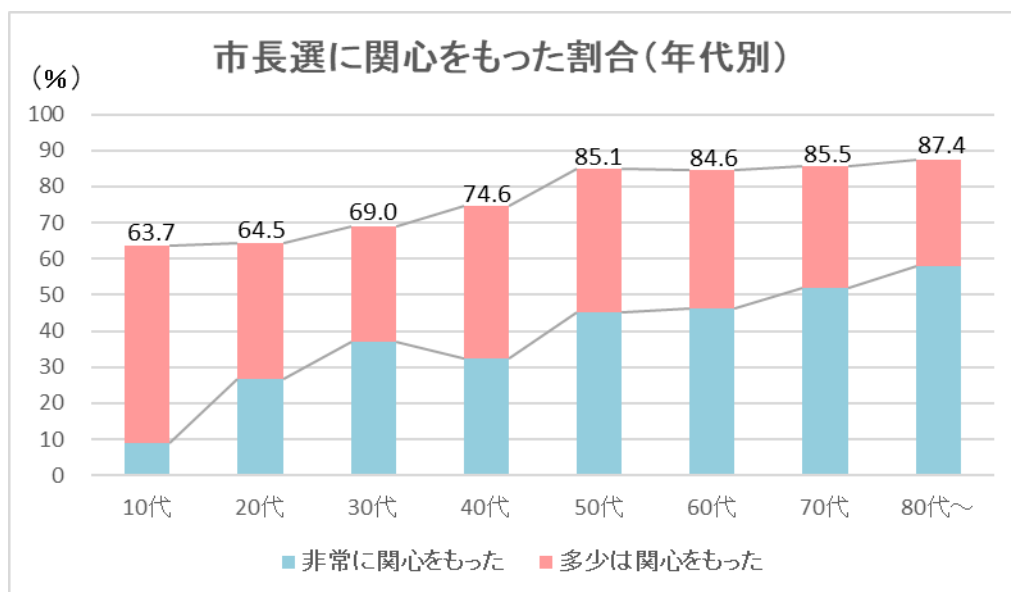
問3 あなたは今回の選挙について、どれくらい関心がありましたか。
3つの選挙についてそれぞれお答えください。

【佐賀市長選挙（市長選）】

全体として見ると、「非常に関心をもった」が45.1%、「多少は関心をもった」が36.2%で、あわせて81.3%が「関心をもった」と回答しており、多くの人が関心をもっていたことが窺える。

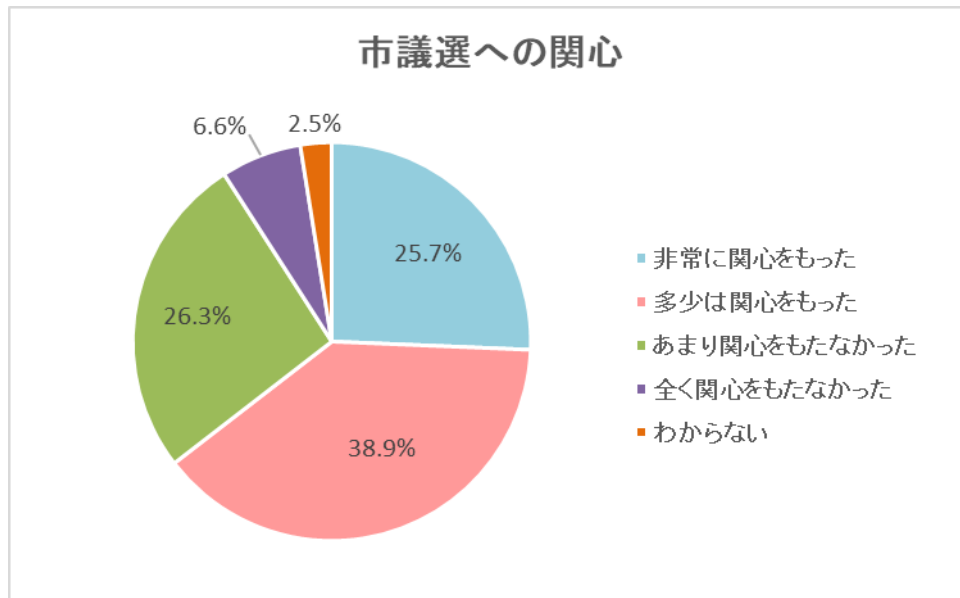


また、「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」の合計について年代別に見ると、年代が高くなるにつれて割合が増える傾向にあり、50代以上では80%以上と高い割合になっている。

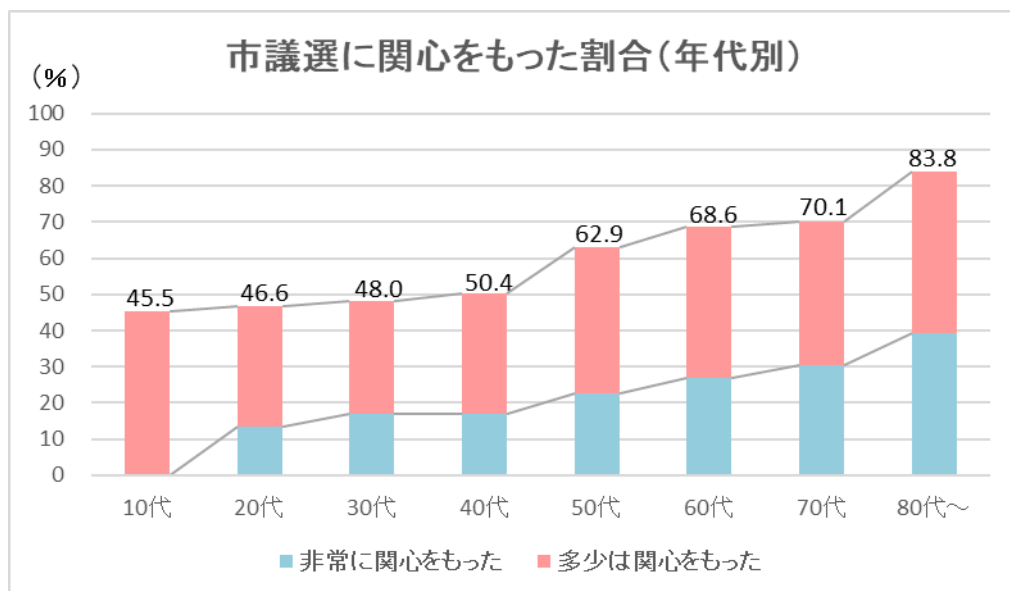


【佐賀市議会議員選挙（市議選）】

全体として見ると、「非常に関心をもった」が25.7%、「多少は関心をもった」が38.9%で、あわせて64.6%が「関心をもった」と回答しており、多くの人が関心をもっていたことが窺えるが、市長選（81.3%）よりは割合が低かった。



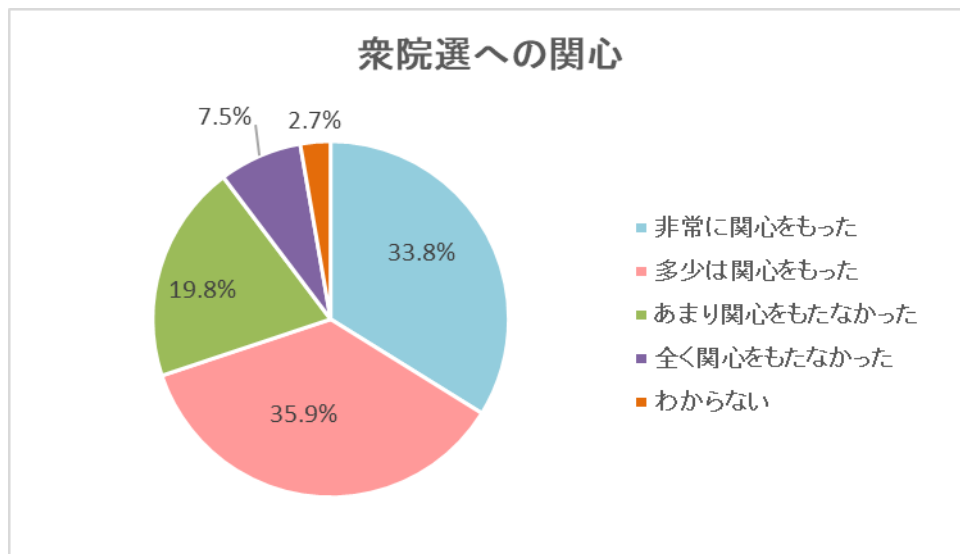
また、「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」の合計について年代別に見ると、市長選と同様、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。



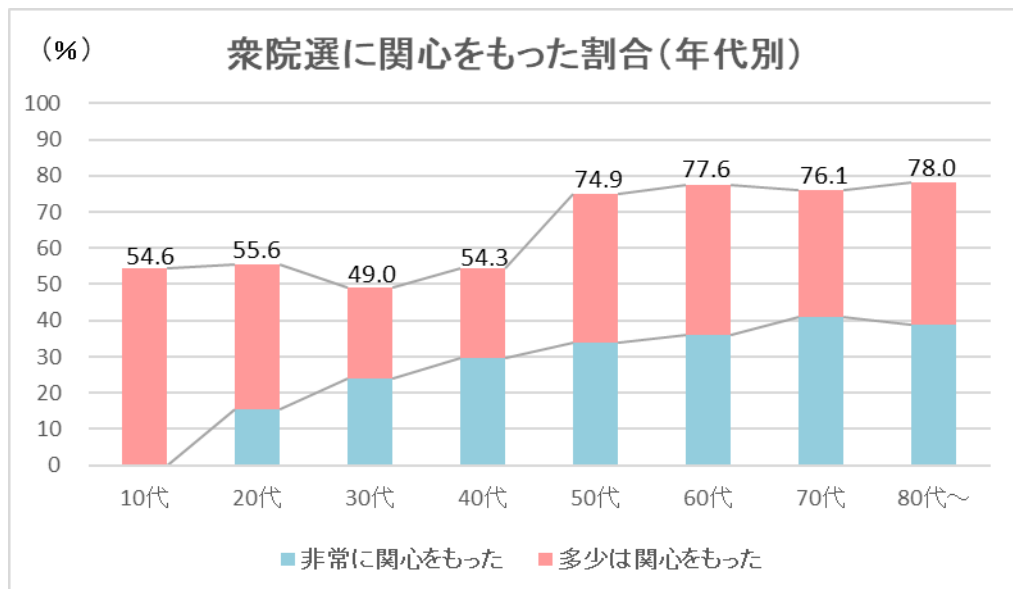
【衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査（衆院選）】

全体として見ると、「非常に関心をもった」が33.8%、「多少は関心をもった」が35.9%で、あわせて69.7%が「関心をもった」と回答しており、市長選、市議選と同様、多くの人が関心をもっていたことが窺える。

なお、この割合は市議選（64.6%）よりは高いものの、市長選（81.3%）よりは低くなっている。



また、「非常に関心をもった」「多少は関心をもった」の合計について年代別に見ると、40代以下はいずれも50%前後、50代以上はいずれも75%前後で推移している。

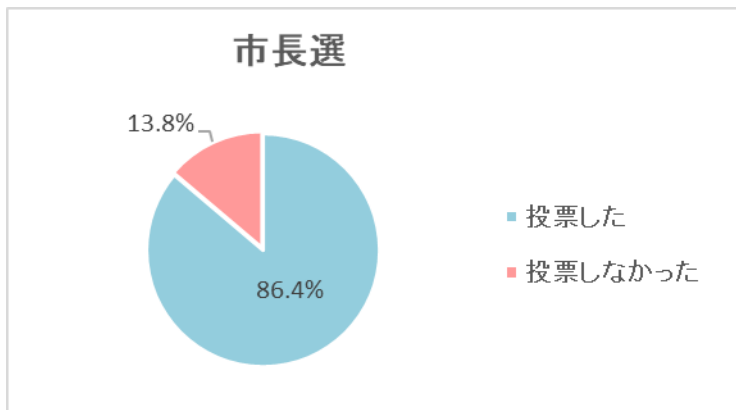


問4 あなたは今回の選挙について、投票しましたか。
3つの選挙についてそれぞれお答えください。

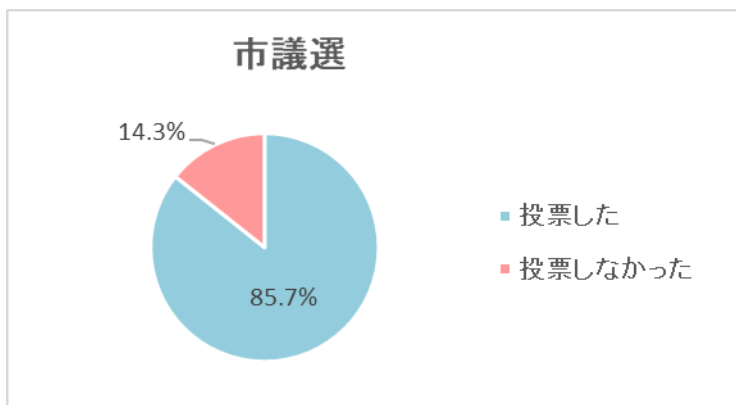
本アンケート調査は無作為抽出法を使用したため、理論上は実際の投票率と近似値になることが想定されるが、調査結果では実際の投票率よりも高い数値を示している。

この要因の一つとして、調査に協力いただいた方は、潜在的に選挙に対する興味や関心が高く、実際に投票された方も多い傾向にあることが推察される。

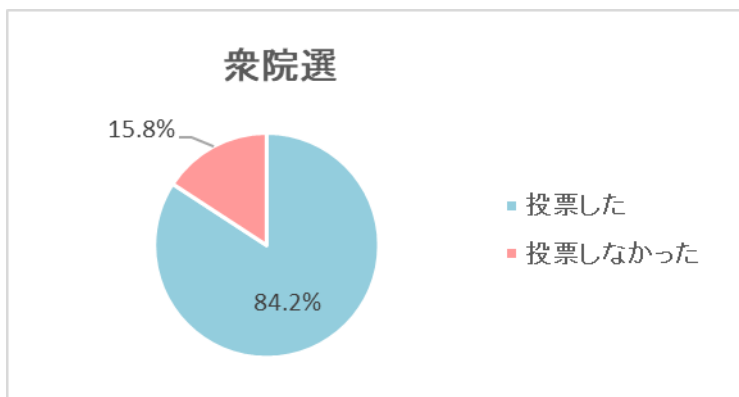
【佐賀市長選挙】 実際の投票率は56.03%



【佐賀市議会議員選挙】 実際の投票率は56.03%



【衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査】 実際の投票率は53.77%

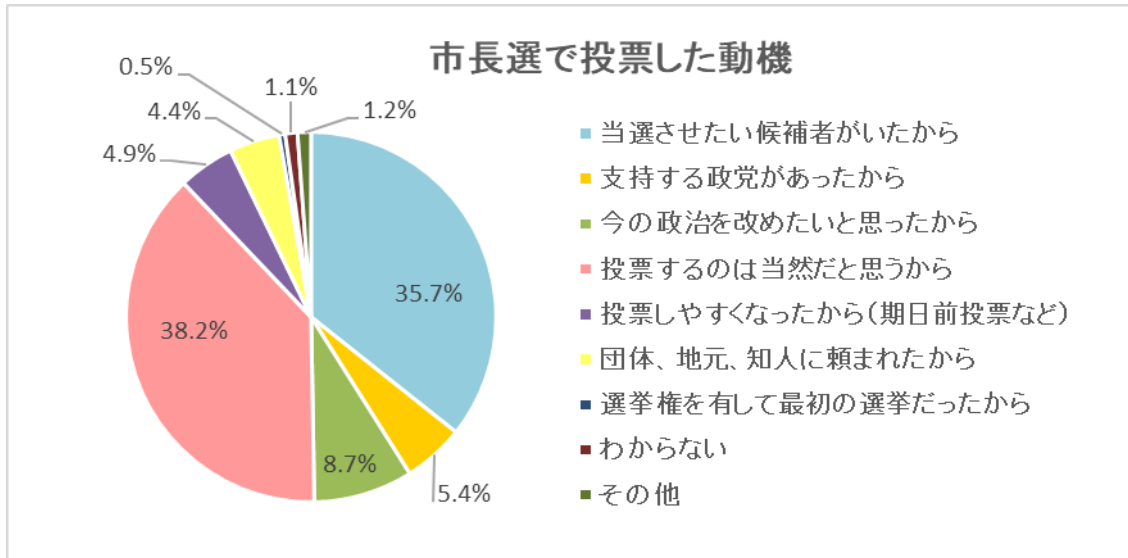


(問5は、問4で「1. 投票した」を選んだ方のみご回答ください)

問5 あなたが投票した動機は何ですか。投票した選挙についてのみお答えください。

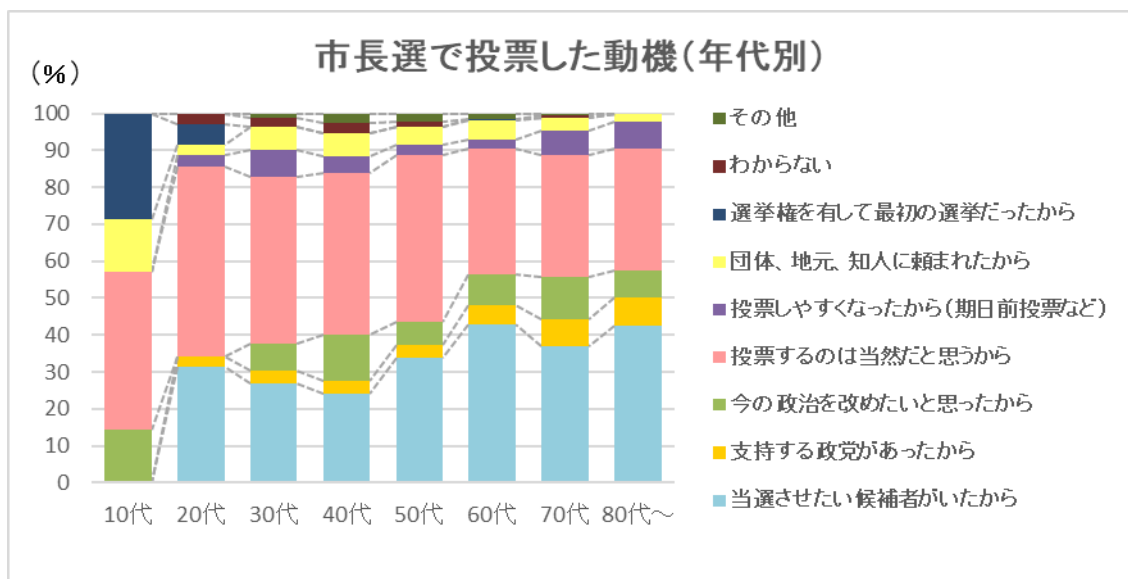
【佐賀市長選挙】

全体として見ると、「投票するのは当然だと思うから」(38.2%)が最も高く、次いで「当選させたい候補者がいたから」(35.7%)となっており、この二つの動機で全体の7割強を占めている。



年代別で見ると、30代以上では全体の傾向とほぼ同様であるが、10代及び20代では「投票するのは当然だと思うから」、「選挙権を有して最初の選挙だったから」と回答した割合が他の年代より多かった。

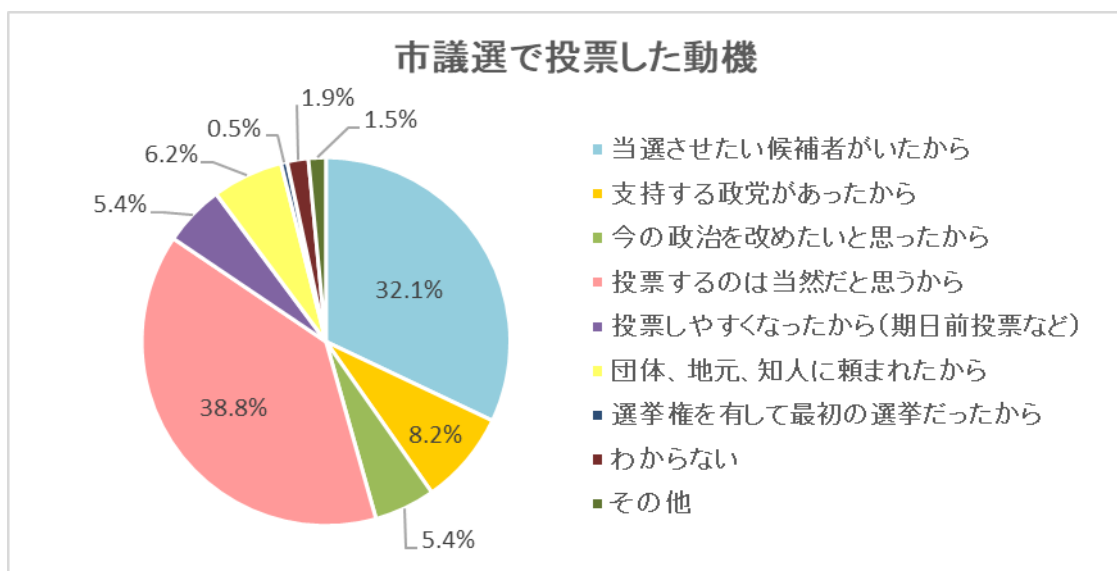
この要因の一つとして、若年層では投票の権利や義務感が投票行動につながっていることが推察される。



【佐賀市議会議員選挙】

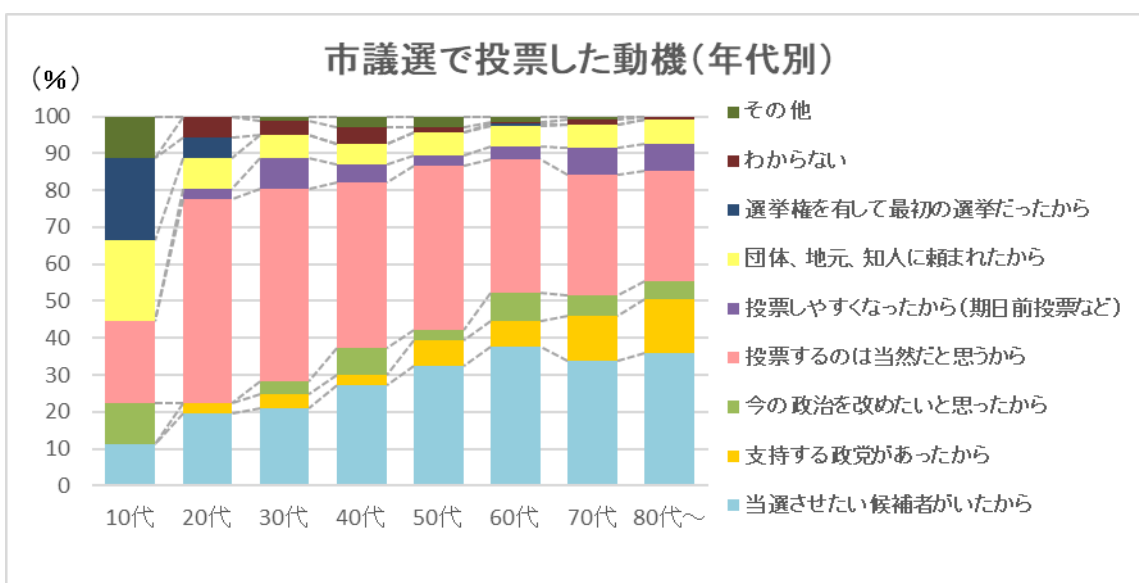
全体として見ると、「投票するのは当然だと思うから」（38.8%）が最も高く、次いで「当選させたい候補者がいたから」（32.1%）となっており、市長選と同様、この二つの動機で全体の7割強を占めている。

なお、市議選では、「団体、地元、知人に頼まれたから」と回答した割合（6.2%）が、市長選（4.4%）、衆院選（2.3%）より多かった。



年代別で見ると、10代を除いては全体の傾向とほぼ同様の傾向となっている。

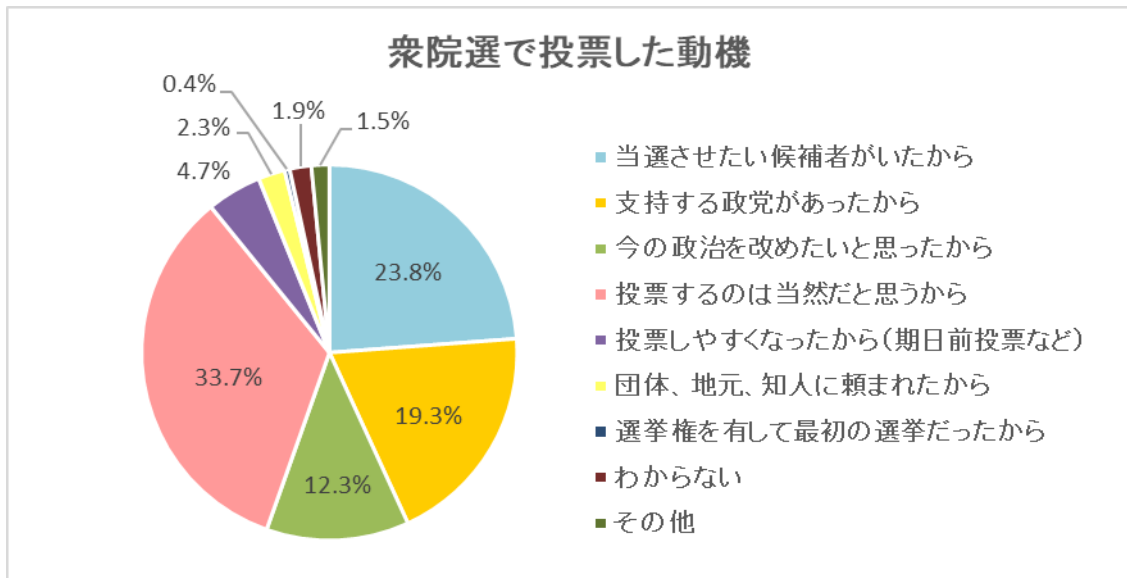
10代では、他の年代と同様、「投票するのは当然だと思うから」が多かったものの、他の年代と比較して、「選挙権を有して最初の選挙だったから」と「団体、地元、知人に頼まれたから」の割合が多かった。



【衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査】

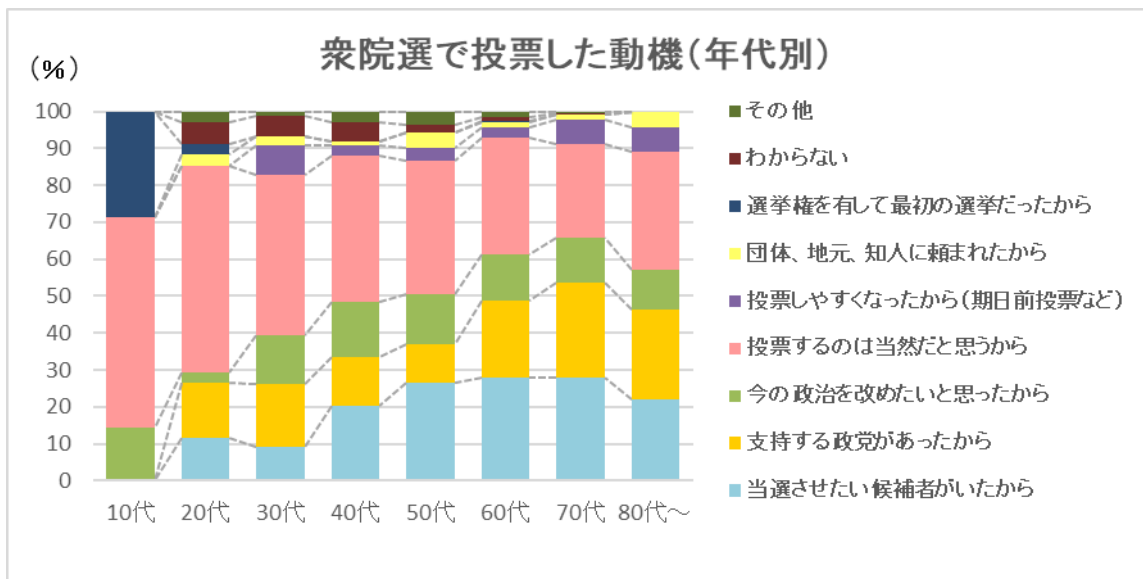
全体として見ると、市長選、市議選と同様、「投票するのは当然だと思うから」(33.7%)が最も高く、次いで「当選させたい候補者がいたから」(23.8%)となっているものの、この二つの動機が占める割合は6割弱(市長選、市議選は7割強)にとどまっている。

一方、衆院選では、市長選、市議選と比較して、「支持する政党があったから」(19.3%)と「今の政治を改めたいと思ったから」(12.3%)と答えた割合が多かった。



年代別で見ると、10代を除いては全体の傾向とほぼ同様の傾向となっている。

10代では、他の年代と同様に「投票するのは当然だと思うから」が多かったものの、次に「選挙権を有して最初の選挙だったから」の割合が多かった。

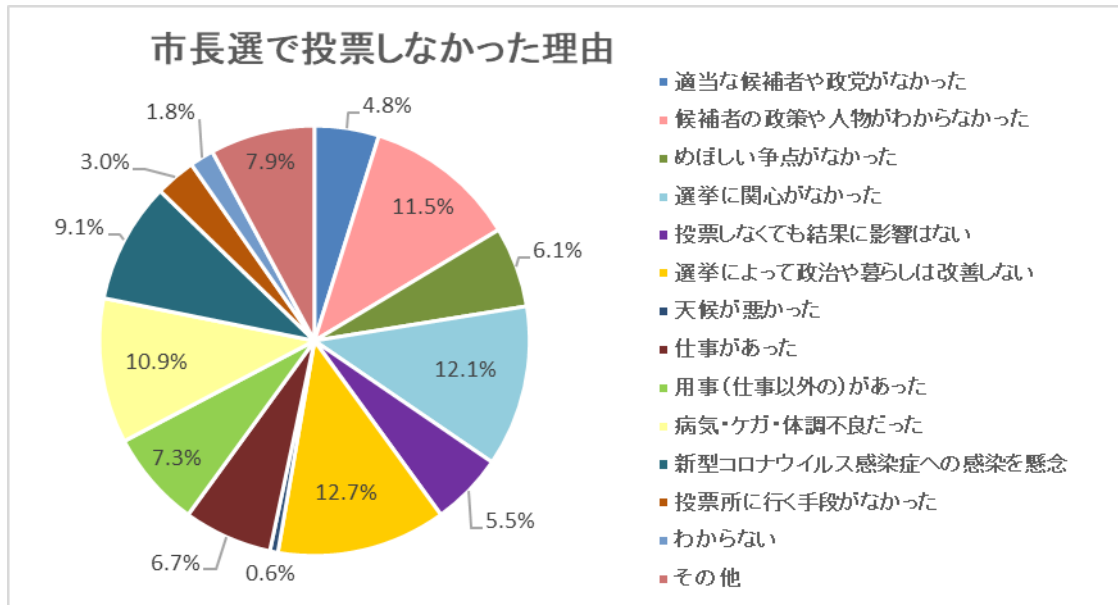


(問6は、問4で「2. 投票しなかった」を選んだ方のみご回答ください)

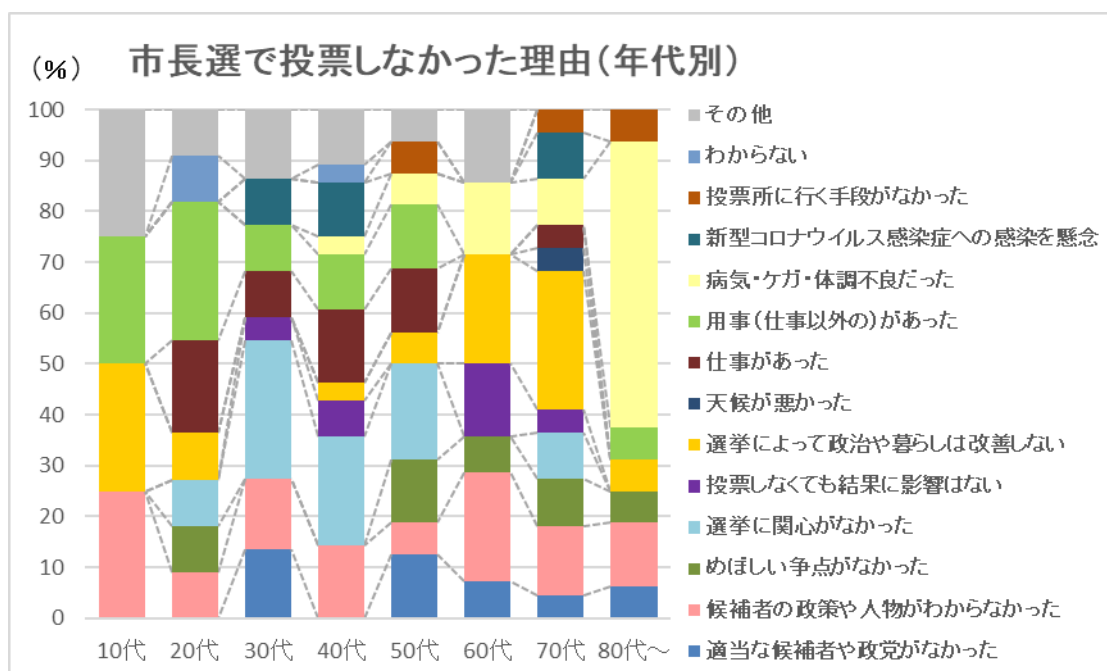
問6 投票しなかった理由についてお答えください。(投票しなかった選挙のみ回答)

【佐賀市長選挙】

全体として見ると、「選挙によって政治や暮らしは改善しない」(12.7%)が最も多く、次いで「選挙に関心がなかった」(12.1%)、「候補者の政策や人物がわからなかった」(11.5%)、「病気・ケガ・体調不良だった」(10.9%)の順となっている。

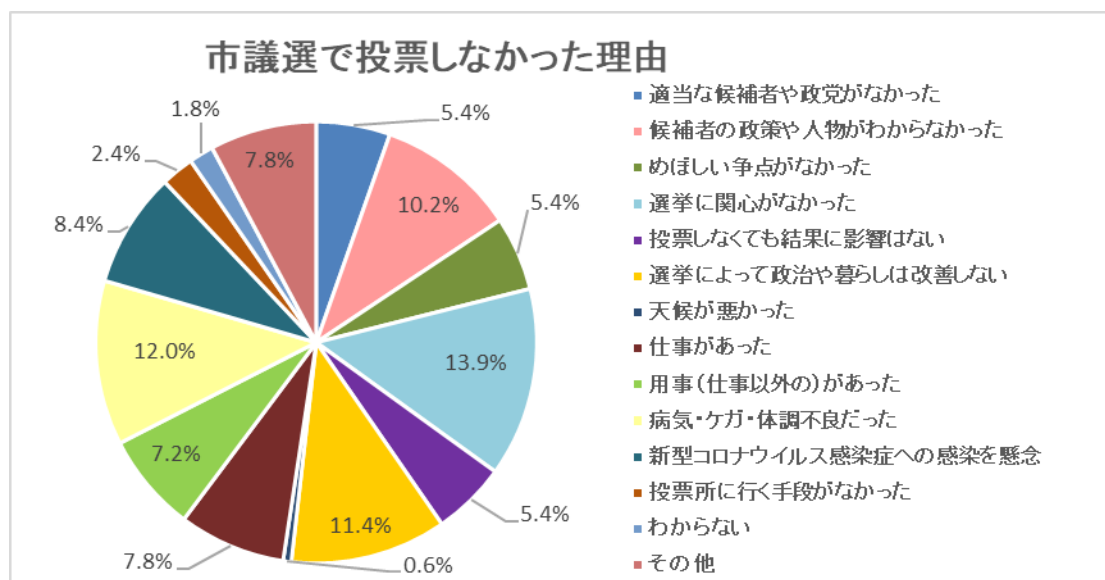


年代別に一番多かった回答を見ると、10代・20代では「用事(仕事以外)があった」、30代～50代では「選挙に関心がなかった」60代・70代では「選挙によって政治や暮らしは改善しない」、80代以上では「病気・ケガ・体調不良だった」となっており、投票しなかった理由が年代によって異なることが窺える。

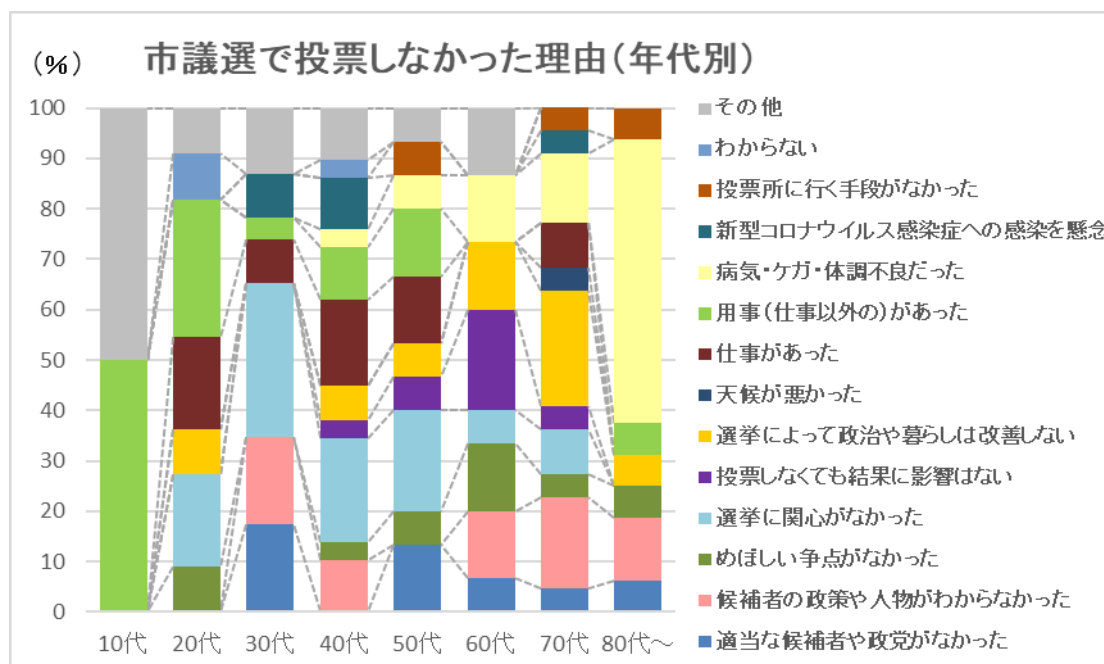


【佐賀市議会議員選挙】

全体として見ると、「選挙に関心がなかった」(13.9%)が最も多く、次いで「病気・ケガ・体調不良だった」(12.0%)、「選挙によって政治や暮らしは改善しない」(11.4%)、「候補者の政策や人物がわからなかった」(10.2%)の順となっている。

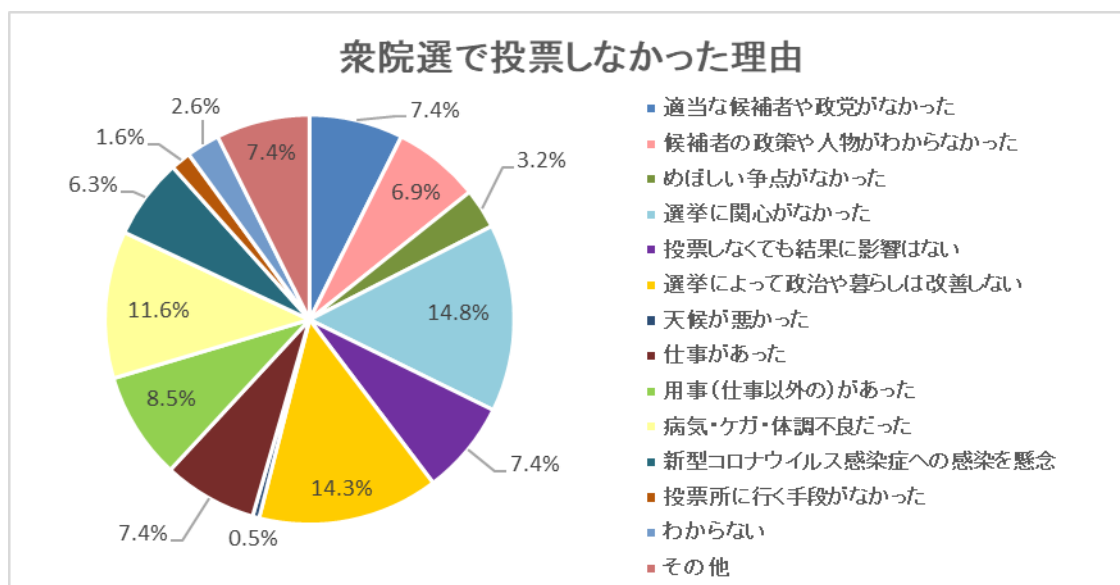


年代別に一番多かった回答を見ると、60代で「投票しなくても結果に影響ない」となっているほかは、市長選と同様の結果となっている。



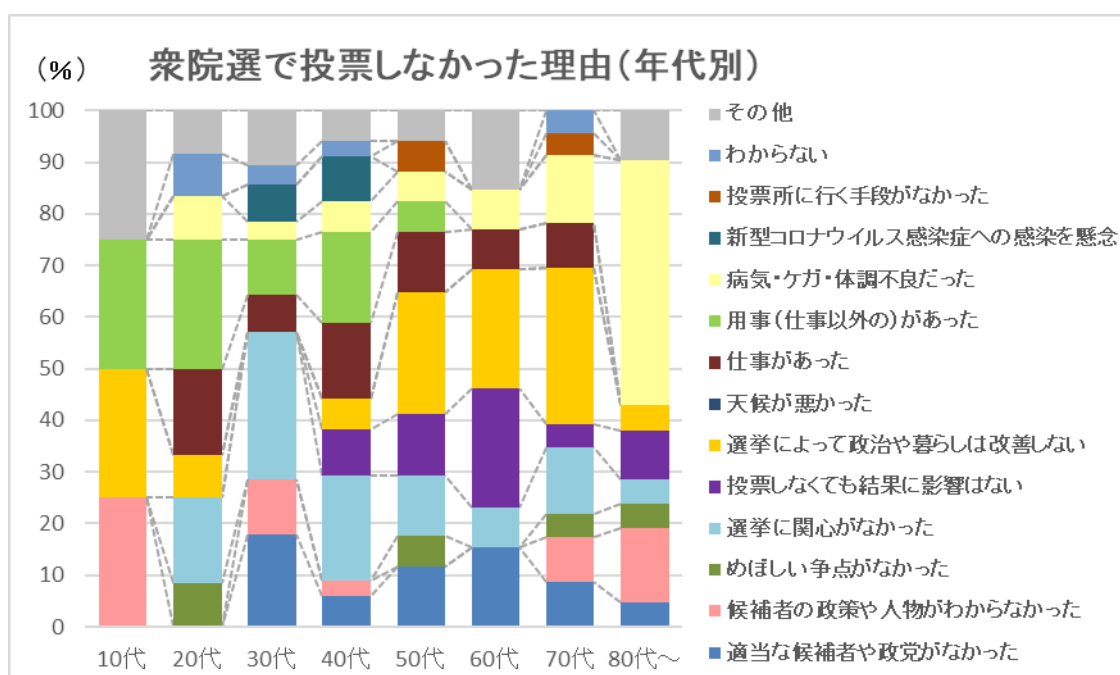
【衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査】

全体として見ると、「選挙に関心がなかった」(14.8%)が最も多く、次いで「選挙によって政治や暮らしは改善しない」(14.3%)、「病気・ケガ・体調不良だった」(11.6%)、「用事(仕事以外)があった」(8.5%)の順となっている。



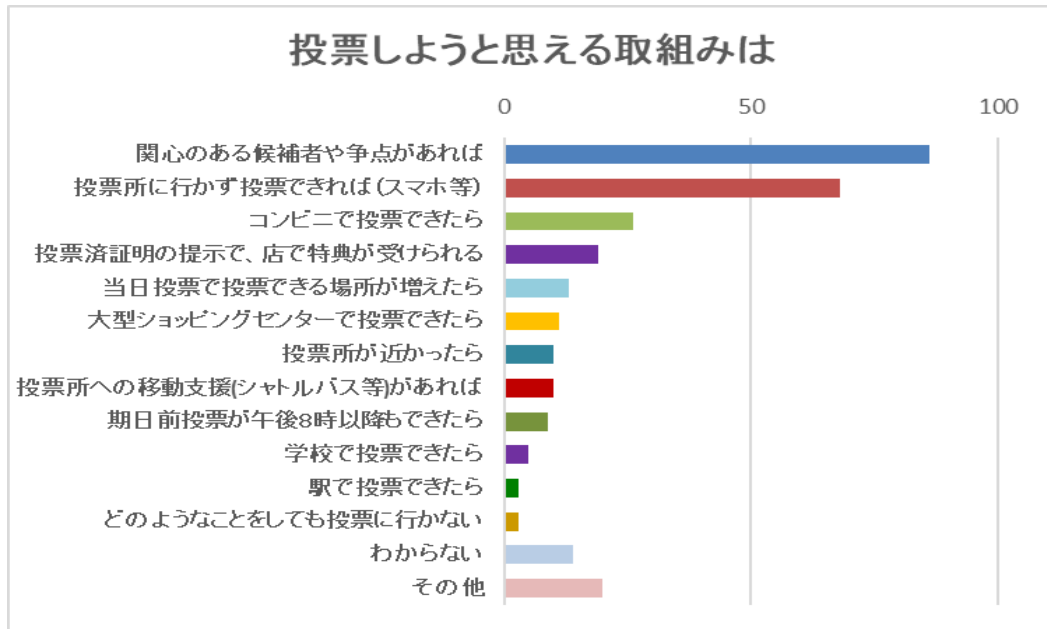
年代別に一番多かった回答を見ると、10代・20代では「用事(仕事以外)があった」、30代・40代では「選挙に関心がなかった」50代～70代では「選挙によって政治や暮らしは改善しない」、80代以上では「病気・ケガ・体調不良だった」となっている。

また、3つの選挙とも、いずれも30代～40代のいわゆる子育て世代において、新型コロナウイルス感染症への感染を懸念して投票をしなかった人が一定数いた。



問7 投票しようと思えるようになるのは、次のうちどれが実現されたときですか。
 当てはまるもの全てを選んでください。(問4で「投票しなかった」と回答した人のみ)

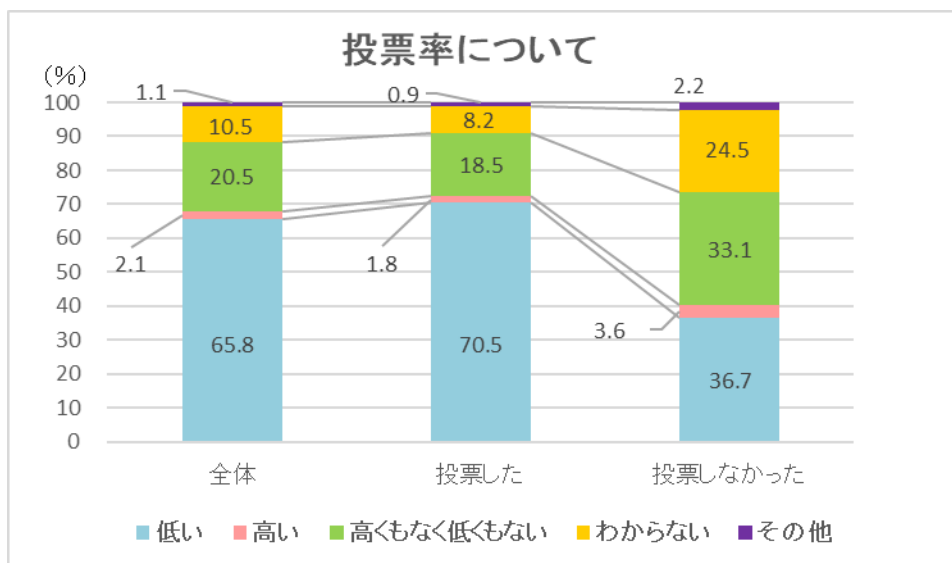
最も多かったのが「関心のある候補者や争点があれば」であり、次いで「投票所に行かずに投票ができれば(スマホ等)」、「コンビニで投票ができれば」の順となっている。



(注)「複数回答可」としていたため、割合(%)ではなく回答数での表示としている。

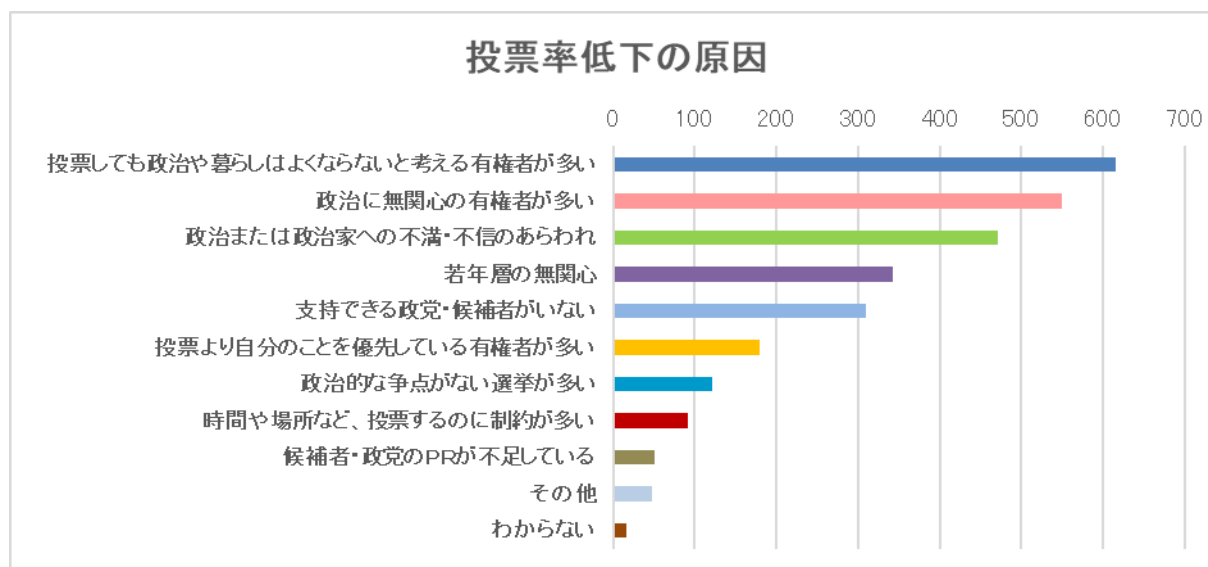
問8 今回の市長選挙・市議会議員選挙の投票率は56.03%、衆議院議員総選挙(小選挙区)の投票率は53.77%でした。過去の投票率も踏まえ、あなたは今回の選挙の投票率にどのような感想を持ちますか。

「投票率が低い」(65.8%)が最も多く、「投票率が低い」と答えた割合を投票した人(70.5%)と投票しなかった人(36.7%)とで比較すると、大きな開きがあり、投票への意識と投票行動に結びつきがあることが推察される。



問9 各種選挙における投票率について、全国的に見ても低下傾向が見受けられます。その原因は何だと思いますか。当てはまるもの全てを選んでください。

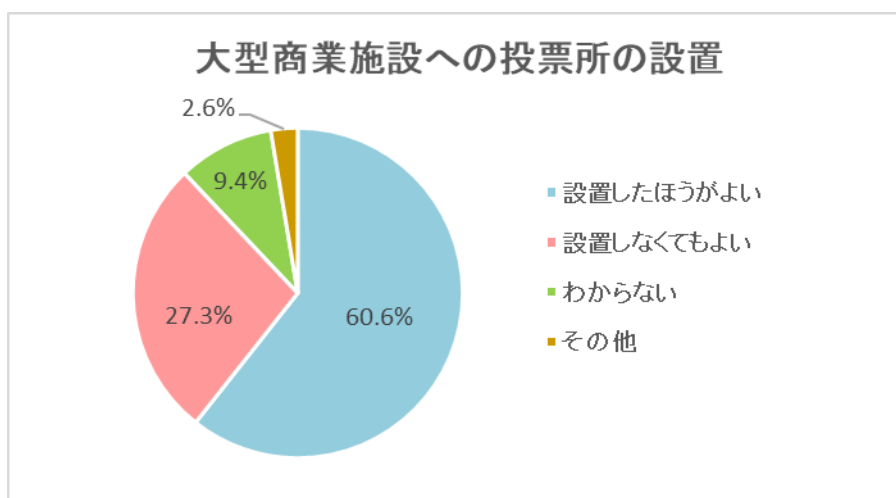
「投票しても政治や暮らしがよくなると考える有権者が多い」が最も多く、次いで「政治に無関心の有権者が多い」、「政治または政治家への不満・不信のあらわれ」、「若年層の無関心」、「支持できる政党・候補者がいない」の順となっている。



(注)「複数回答可」としていたため、割合(%)ではなく回答数での表示としている。

問10 投票環境の向上のため、期日前投票所や投票日当日の共通投票所(市内に選挙権を有する方なら誰でも投票できる投票所)を大型商業施設などに設置することが全国的に検討されています。このことについて、佐賀市ではどのように対応すべきか、あなたの考えに近いものを選んでください。

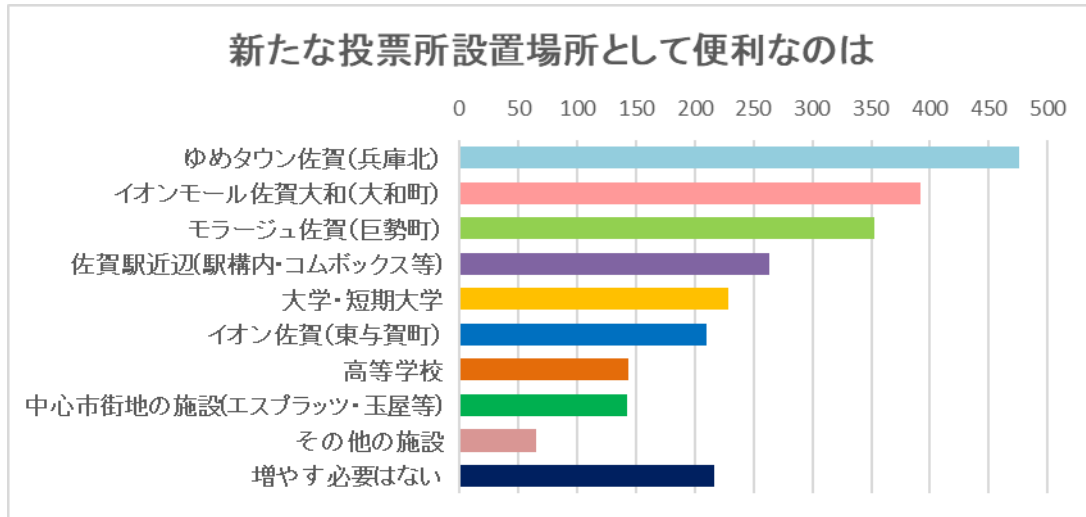
「設置したほうがよい」が60.6%、「設置しなくてもよい」が27.3%であった。



問 1 1 期日前投票所や投票日当日の共通投票所を新たに設置するとした場合、どこが便利だと思いますか。当てはまるもの全てを選んでください。

「ゆめタウン佐賀」が最も多く、次いで「イオンモール佐賀大和」、「モラージュ佐賀」、「佐賀駅近辺（駅構内、コムボックス等）」、「大学・短期大学」の順となっている。

一方、「増やす必要はない」との回答も全体の2割程度を占めており、一定数の有権者は既存の期日前投票所で充足されていると考えていることが推察できる。

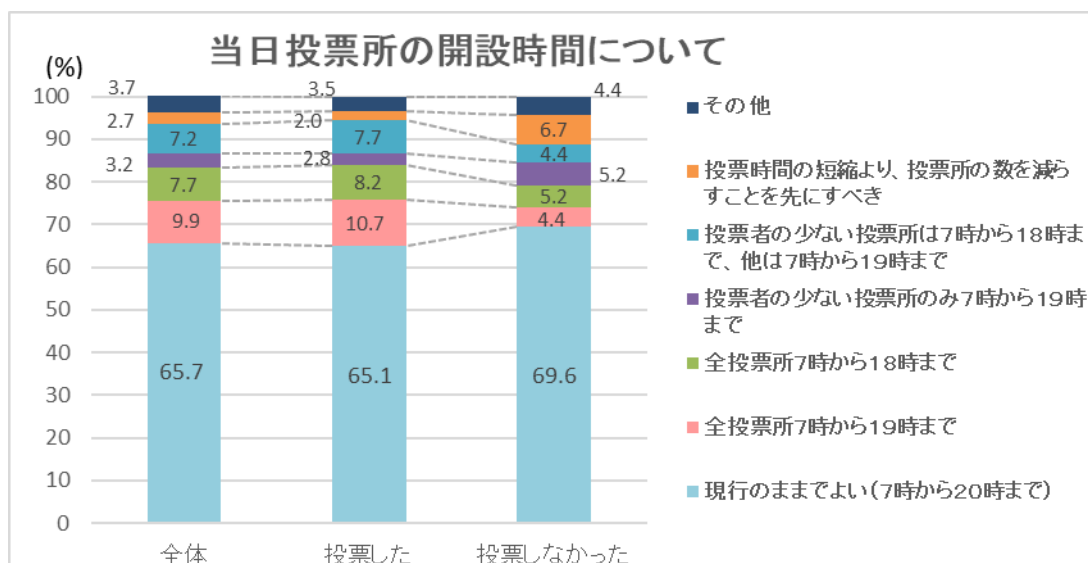


(注)「複数回答可」としていたため、割合(%)ではなく回答数での表示としている。

問 1 2 期日前投票の割合が増加傾向にある一方で、当日投票の割合は減少傾向にあることから、多くの市町村で当日投票所の投票時間の見直しがなされています。本市で見直す場合、どのように対応すべきか、あなたの考えに近いものを選んでください。

全体として見ると、「現行のままでよい(7時から20時まで)」が65.7%を占めている。一方で、投票時間短縮に理解を示す回答をあわせて28.0%であり、「全投票所7時から19時まで」、「全投票所7時から18時まで」の順となっている。

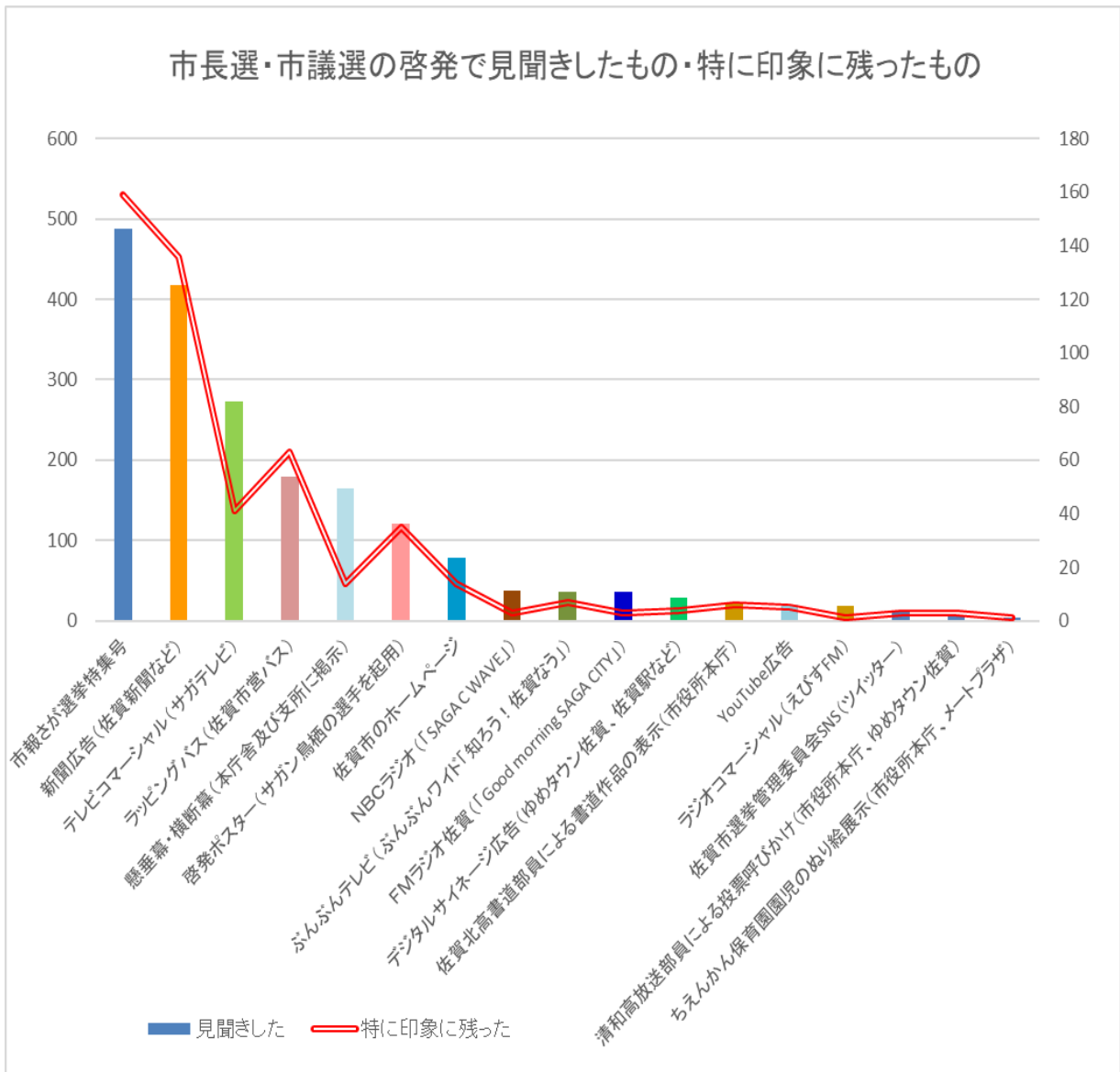
また、投票時間短縮に理解を示す回答の割合を投票した人(29.4%)と投票しなかった人(19.2%)とで比較すると、投票した人の方が高い割合を示している。



問13 今回の市長選挙・市議会議員選挙に関する選挙啓発について、見たり聞いたりしたものはありますか。また、その中で特に印象に残ったものはありますか。見たり聞いたりしたものを全て選び、うち特に印象に残ったものを1つだけ選んでください。

見たり聞いたりしたものでは、「市報さが選挙特集号」が最も多く、次いで「新聞広告（佐賀新聞など）」、「テレビコマーシャル（サガテレビ）」、「ラッピングバス（佐賀市営バス）」、「懸垂幕・横断幕（本庁舎及び支所に掲示）」「啓発ポスター（サガン鳥栖の選手を起用）」の順となっている。

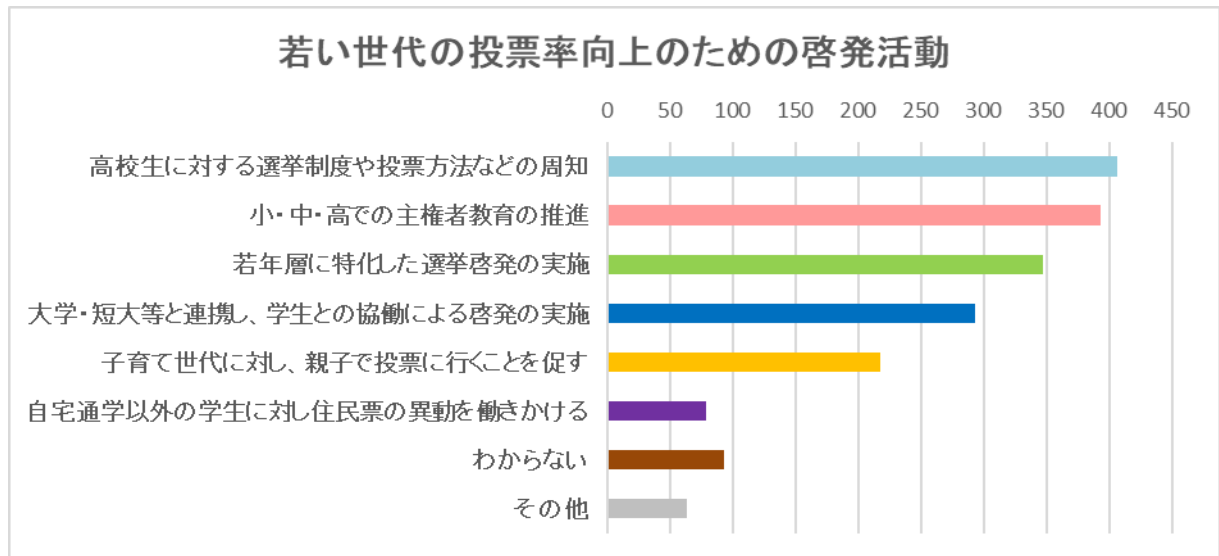
特に印象に残ったものについても、見たり聞いたりしたもので数値の高かった啓発が高い傾向を示している。



(注)「複数回答可」としていたため、割合(%)ではなく回答数での表示としている。

問14 若い世代の投票率向上のため、佐賀市選挙管理委員会でどのような啓発活動を行うべきと考えますか。当てはまるもの全てを選んでください。

「高校生に対する選挙制度や投票方法などの周知」が最も多く、次いで「小・中・高での主権者教育の推進」、「若年層に特化した選挙啓発の実施」、「大学や短大と連携しての啓発活動の実施」、「子育て世代への親子での投票の呼びかけ」の順となっている。



(注)「複数回答可」としていたため、割合(%)ではなく回答数での表示としている。

◆その他の意見 (アンケート最後のご意見欄)

- ネットで投票できるようにしてほしい
- 子どもの時の教育を強化すべき
- YouTube や SNS 等若者向けの啓発を強化した方がいい
- 若い人に有利な政策がないと関心を持たないと思う
- 私たち若者にもわかりやすい言葉で一から政策を知れるような機会があるとよい
- 選挙に行ったらなにかしらのサービスを受けられるといいのでは
- 従業員に投票へ行くように企業に呼び掛けてみては
- 学校教育だけでなく市単位で政見放送をホール等で視聴する機会を設けては
- 若者向けの政策がないと若者は興味を持ってくれない
- 名前の連呼をやめてほしい
- 投票所の雰囲気が高く入りづらい
- 期日前投票日を本庁と支所一緒にしてほしい
- 候補者等の政策等を具体的に説明するよう工夫してほしい
- 投票所までのアクセスをよくしてほしい
- できるだけ時間や費用の効率化を目指していただきたい

【参考】調査票様式

令和3年10月17日執行佐賀市長選挙・佐賀市議会議員選挙及び
令和3年10月31日執行衆議院議員総選挙についてのアンケート

《 調査についてのお願い 》

1. アンケートは、両面刷り4枚の7ページ、14問あります。
2. 各質問について、特に指示のない限り、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○を付けてください。
3. ご回答が終わられたら、記入漏れや誤った記載がないかご確認いただいたうえで、このアンケートを同封の返信用封筒に入れ、令和4年2月10日（木）までにご返送ください。

◇問1 あなたの年齢をお答えください。（※回答日現在でお答えください。）

1. 18～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

◇問2 あなたの居住地をお答えください。（※回答日現在でお答えください。）

1. 旧佐賀市 2. 諸富町 3. 大和町 4. 富士町
5. 三瀬村 6. 川副町 7. 東与賀町 8. 久保田町
9. 佐賀市外

◇問3 あなたは今回の選挙について、どれくらい関心がありましたか。

3つの選挙について、それぞれお答えください。

項目	市長選挙	市議会議員選挙	衆議院議員総選挙
非常に関心をもった	1	1	1
多少は関心をもった	2	2	2
あまり関心をもたなかった	3	3	3
全く関心をもたなかった	4	4	4
わからない	5	5	5

◇問4 あなたは今回の選挙について、投票しましたか。

3つの選挙について、それぞれお答えください。

項目	市長選挙	市議会議員選挙	衆議院議員総選挙
投票した	1	1	1
投票しなかった	2	2	2

(問5は、問4で「1 投票した」を選んだ方のみご回答ください)

◇問5 あなたが投票した動機は何ですか。投票した選挙についてのみお答えください。

項目	市長選挙	市議会議員選挙	衆議院議員総選挙
当選させたい候補者がいたから	1	1	1
支持する政党があったから	2	2	2
今の政治を改めたいと思ったから	3	3	3
投票するのは当然だと思うから	4	4	4
投票しやすくなったから(期日前投票など)	5	5	5
団体、地元、知人に頼まれたから	6	6	6
選挙権を有して最初の選挙だったから	7	7	7
わからない	8	8	8
その他	9	9	9

(上記「その他」の動機について、ご記入ください。)

(問6は、問4で「2 投票しなかった」を選んだ方のみご回答ください)

◇問6 投票しなかった理由についてお答えください。
投票しなかった選挙についてのみお答えください。

項目	市長選挙	市議会議員選挙	衆議院議員総選挙
適当な候補者や政党がなかったから	1	1	1
候補者の政策や人物がわからなかったから	2	2	2
めぼしい争点がなかったから	3	3	3
選挙に関心がなかったから	4	4	4
投票しなくても結果に影響はないから	5	5	5
選挙によって政治や暮らしは改善しないから	6	6	6
天候が悪かったから	7	7	7
仕事があったから	8	8	8
用事(仕事以外の)があったから	9	9	9
病気・ケガ・体調不良だったから	10	10	10
新型コロナウイルス感染症への感染が懸念されたから	11	11	11
投票所に行く手段がなかったから	12	12	12
わからない	13	13	13
その他	14	14	14

(上記「その他」の理由について、ご記入ください。)

◇問 11 期日前投票所や投票日当日の共通投票所を新たに設置するとした場合、どこが便利だと思いますか。当てはまるもの全てを選んでください。

1. イオンモール佐賀大和（大和町）
2. イオン佐賀（東与賀町）
3. ゆめタウン佐賀（兵庫北）
4. モラージュ佐賀（巨勢町）
5. エスプラッツ（白山）・佐賀玉屋（中の小路）など中心市街地にある施設
6. 佐賀駅構内・コムボックス佐賀など佐賀駅近辺にある施設
7. 大学・短期大学
8. 高等学校
9. その他の施設（例えば ） ←ご記入ください
10. 増やす必要はない

◇問 12 期日前投票する有権者の割合が増加傾向にある一方で、当日投票する有権者の割合は減少傾向にあることから、多くの市町村で当日投票所の投票時間の見直しがなされています。佐賀市で見直す場合、どのように対応すべきか、あなたの考えに近いものを選んでください。

【参考】直近の国政選挙における当日投票所での時間別投票者数及び投票率（佐賀市）

	7:00 ~8:00	8:00 ~9:00	9:00 ~10:00	...	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00
平成 29 年 10 月 22 日 (衆院選)	3,894 人 2.02%	5,688 人 2.95%	9,074 人 4.70%	...	4,209 人 2.18%	3,583 人 1.86%	1,980 人 1.03%
令和元年 7 月 21 日 (参院選)	2,791 人 1.47%	4,208 人 2.22%	6,861 人 3.61%	...	4,032 人 2.12%	3,709 人 1.95%	2,506 人 1.32%
令和 3 年 10 月 31 日 (衆院選)	3,607 人 1.89%	5,266 人 2.75%	8,166 人 4.27%	...	5,153 人 2.69%	3,951 人 2.06%	2,333 人 1.22%

1. 現行のままでよい（7時から20時まで）
2. 全投票所7時から19時までとする
3. 全投票所7時から18時までとする
4. 投票者の少ない投票所のみ7時から19時まで
5. 投票者の少ない投票所は7時から18時まで、他は7時から19時まで
6. 投票時間の短縮より、投票所の統合（数を減らすこと）を先に考えるべき
7. その他（ ） ←ご記入ください

◇問13 今回の市長選挙・市議会議員選挙に関する選挙啓発について、見たり聞いたりしたものはありますか。また、その中で特に印象に残ったものはありますか。
見たり聞いたりしたものを全てを選んでいただき、うち特に印象に残ったものを1つだけ選んでください。

内 容	見聞きした	特に印象に残った
懸垂幕・横断幕（本庁舎及び支所に掲示）	1	1
ラッピングバス（佐賀市営バス）	2	2
市報さが選挙特集号	3	3
啓発ポスター（サガン鳥栖の選手を起用）	4	4
テレビコマーシャル（サガテレビ）	5	5
ラジオコマーシャル（えびすFM）	6	6
ぶんぶんテレビ（ぶんぶんワイド「知ろう！佐賀なう」）	7	7
FMラジオ佐賀（「Good morning SAGA CITY」）	8	8
NBCラジオ（「SAGA C WAVE」）	9	9
新聞広告（佐賀新聞など）	10	10
佐賀市のホームページ	11	11
佐賀市選挙管理委員会 SNS（ツイッター）	12	12
YouTube 広告	13	13
デジタルサイネージ広告〔電子看板広告〕 （ゆめタウン佐賀、佐賀駅など）	14	14
佐賀清和高校放送部員による投票呼びかけ （佐賀市役所本庁、ゆめタウン佐賀などで実施）	15	15
佐賀北高書道部員による書道作品による投票所表示 （佐賀市役所本庁期日前投票所）	16	16
ちえんかん保育園園児によるぬり絵の展示 （佐賀市役所本庁及びメートプラザ期日前投票所）	17	17
特に印象に残っているものはない		18

◇問 14 若い世代ほど投票率が低い傾向にあります。若い世代の投票率向上につなげるため、佐賀市選挙管理委員会でのどのような啓発活動を行うべきと考えますか。当てはまるもの全てを選んでください。

【参考】直近の国政選挙における年代別投票率（佐賀市）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
平成 29 年 10 月衆院選	38.57%	31.80%	42.74%	53.77%	64.61%	72.68%	74.57%
令和元年 7 月参院選	25.84%	25.08%	32.07%	39.21%	47.65%	55.15%	56.93%
令和 3 年 10 月衆院選	35.33%	31.20%	41.49%	50.68%	60.38%	69.13%	70.76%

1. 小学校、中学校、高等学校等での主権者教育(*)の推進
2. 高校生に対する選挙制度や投票方法などの周知
3. 大学や短大などと連携し、学生との協働による啓発の実施
4. 若年層に特化した選挙啓発の実施
5. 子育て世代に対し、親子で投票に行くことを促す
6. 自宅通学以外の大学生や短大生に対し住民票の異動を働きかける
7. わからない
8. その他（ ） ←ご記入ください

*主権者教育：主権者としての政治との関わり方を教える教育。

この一環として、選挙管理委員会の職員が学校などに出向いて選挙に関する出前講座や模擬選挙などを実施している。

◆その他、ご意見がありましたらご記入ください。

～アンケートへのご協力ありがとうございました～